



夏休みアンケート

緊急支援プロジェクト実行中
2025年4月～現在実行中

アンケート結果

9月5日現在時点までの結果



749名調査

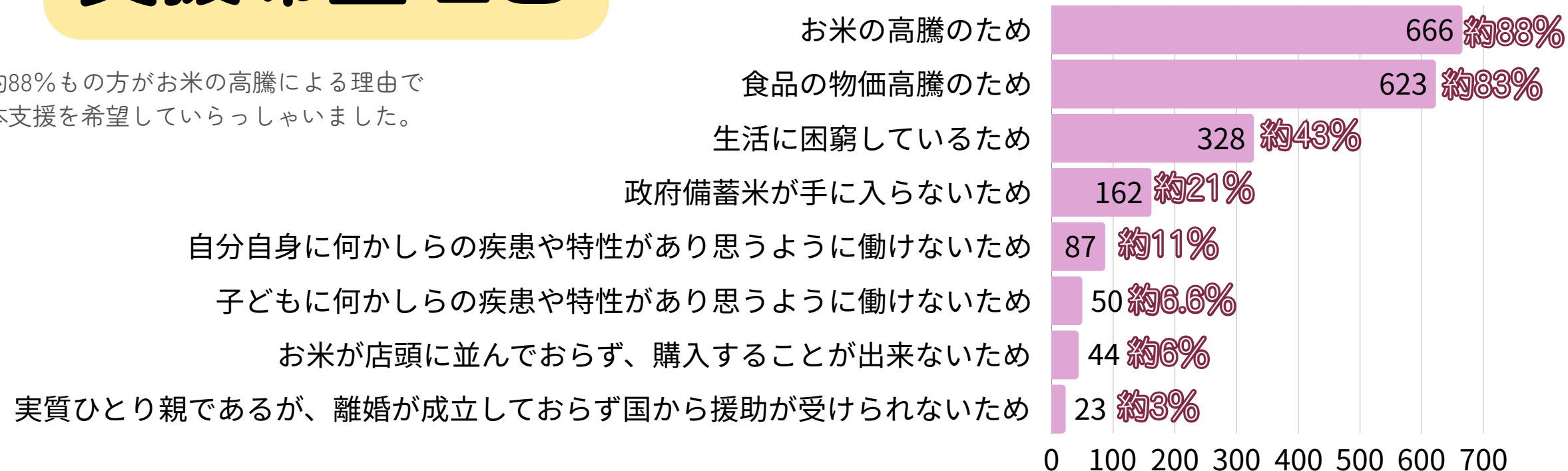
目的：支援希望者の実態調査目的にて調査を実施

期間：2025年7月31日～9月5日(支援調査は実行中)

支援を必要とされるひとり親などの子育て家庭へ向けて、食糧・日用品支援を宅配にて行っております。その申込時にアンケート調査へのご協力をお願いし、生活やお困りごとの現状についてお聞かせいただきました。

支援希望理由

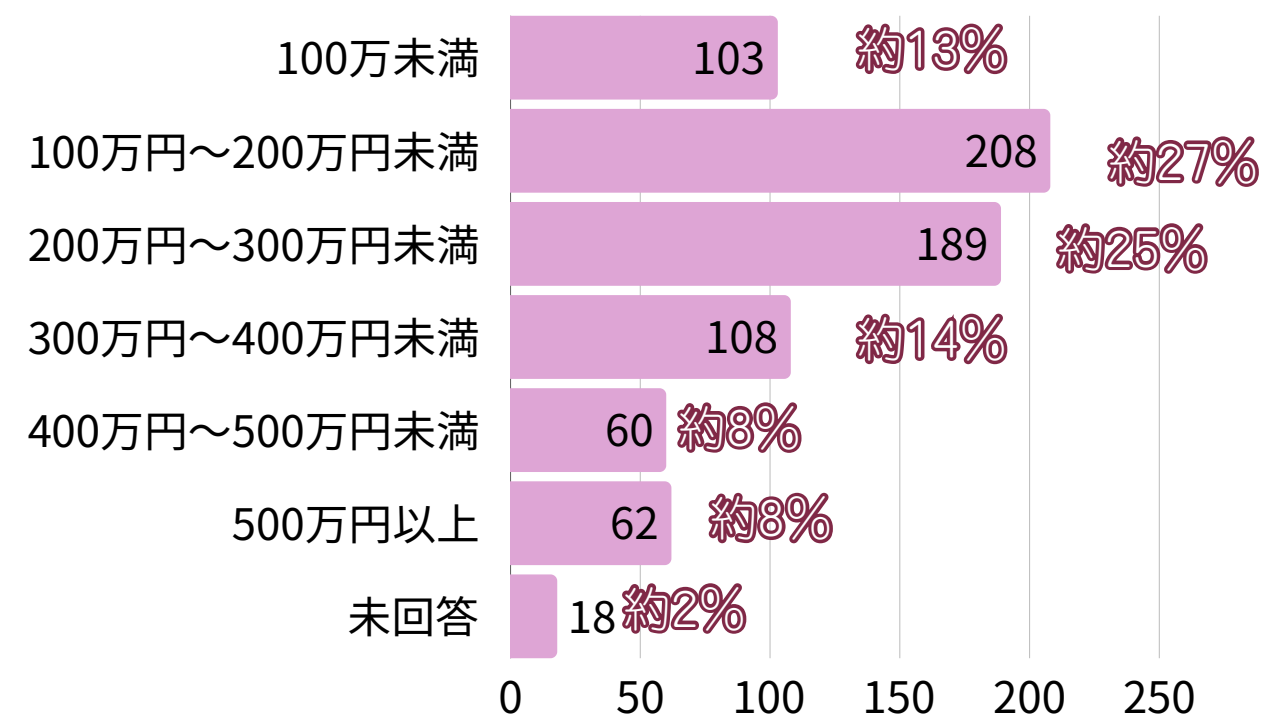
約88%もの方がお米の高騰による理由で本支援を希望していらっしゃいました。



世帯年収

応募全体の約66%が世帯年収300万円未満という結果となりました。

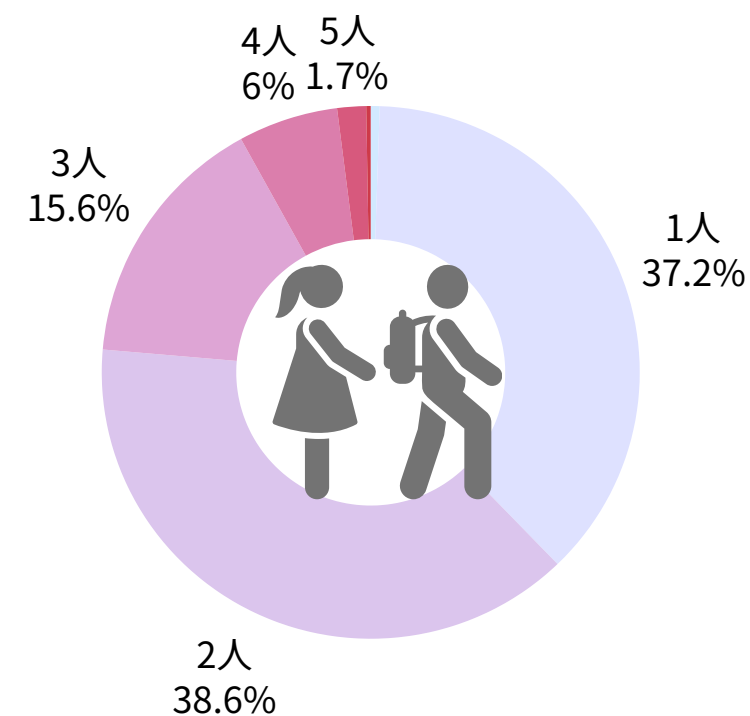
全国数値での年収300万円以下の世帯は全体の約30%です。
参考：(国民生活基礎調査2021年 による全国データ)
(厚生労働省2019年調査データ)



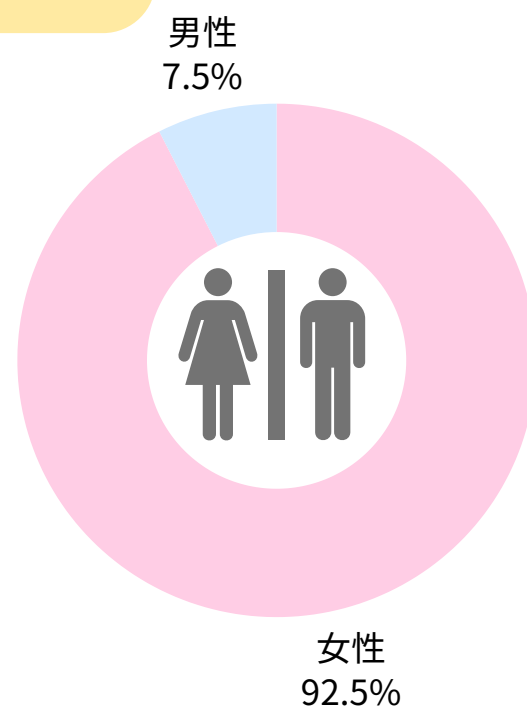
アンケート結果

こども人数

全体で平均すると、支援を求めている方々は約1.96人(約2人)のお子様を抱えていることがわかります。

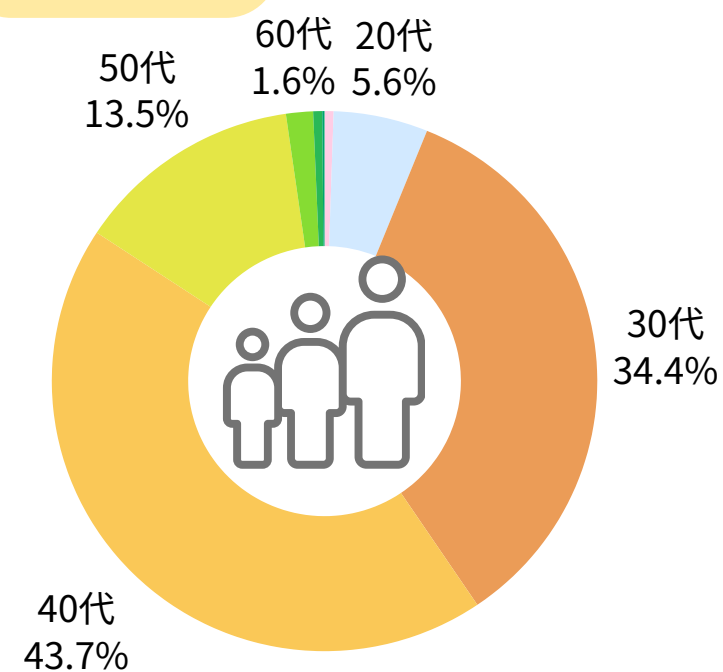


性別



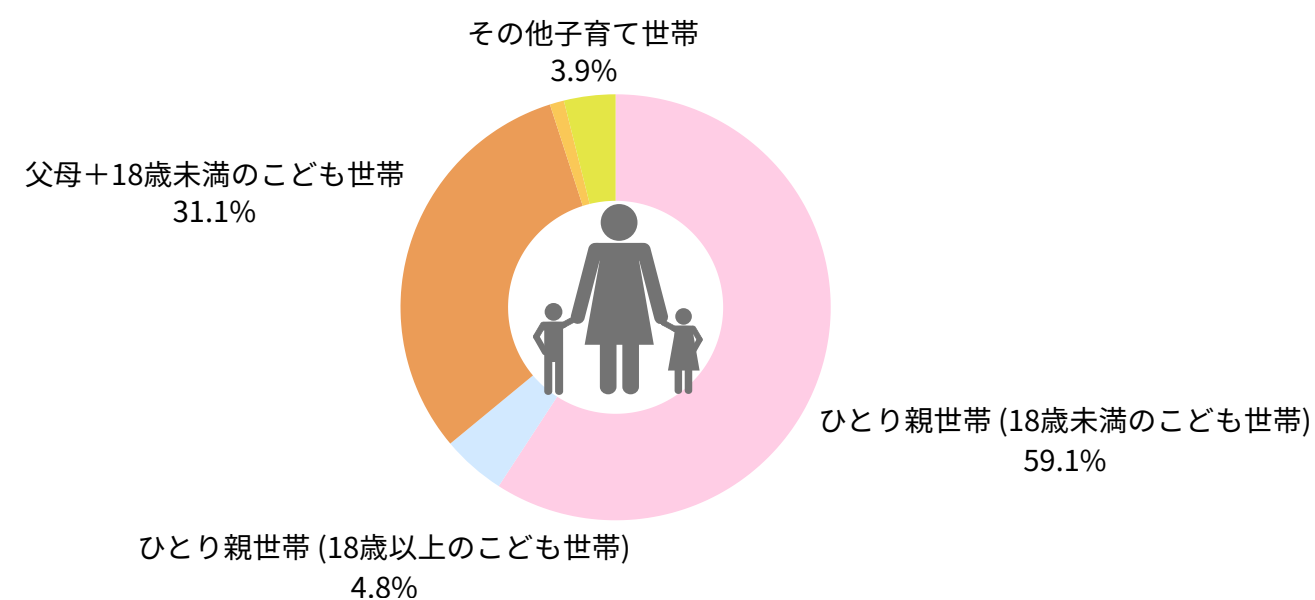
応募のほとんどが女性からのご応募でした。

年齢



応募者全体の約78%が30代・40代からでした。

家族構成

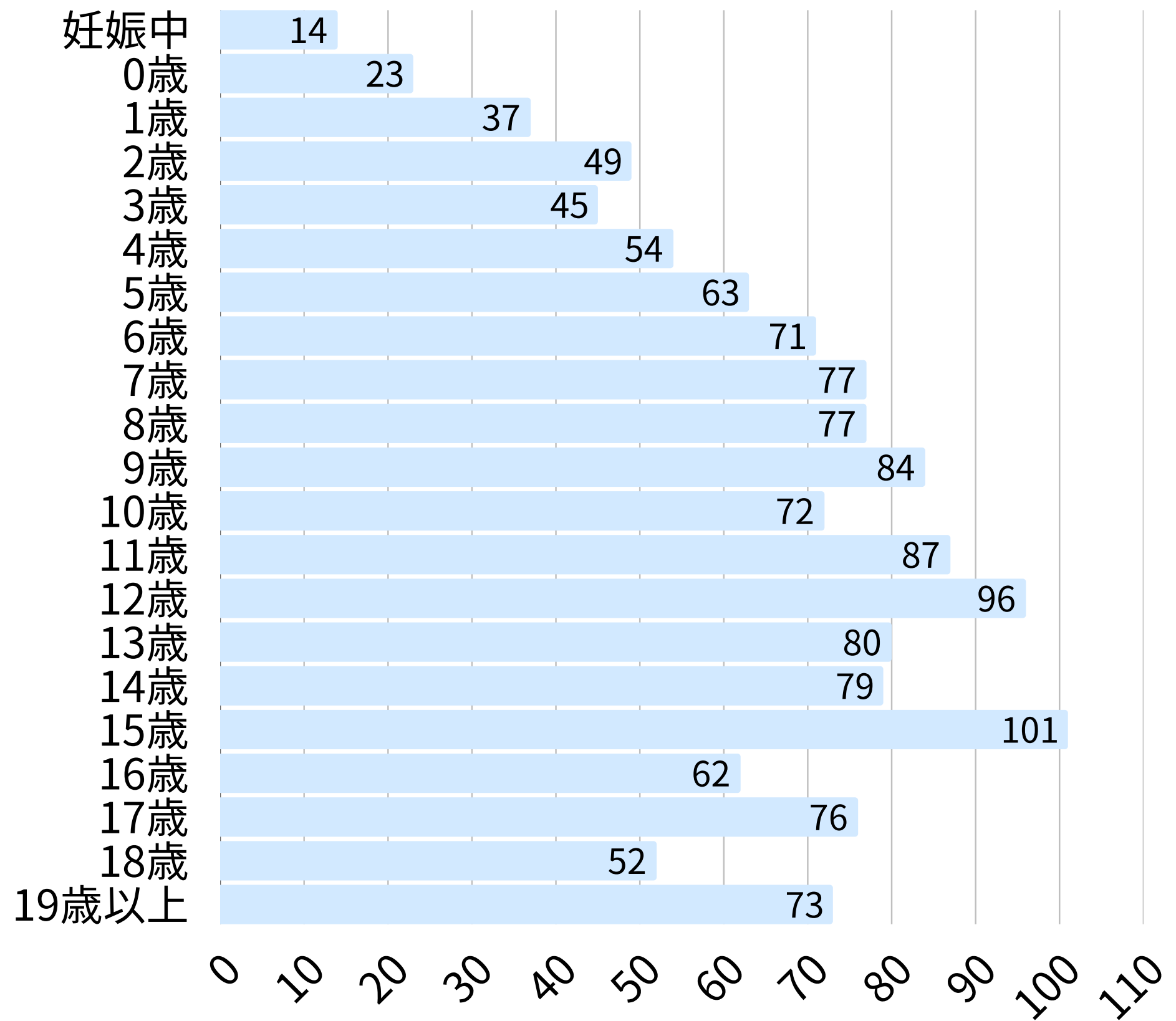


全体の半数以上(約60%)が18歳未満のお子様を抱えるひとり親世帯からのご応募でした。

アンケート結果

こどもの年齢

同居しているこどもの年齢を調査した結果です。
中学生や高校生・大学生などの進学タイミングで
生活が苦しくなるというお声もいただいています。

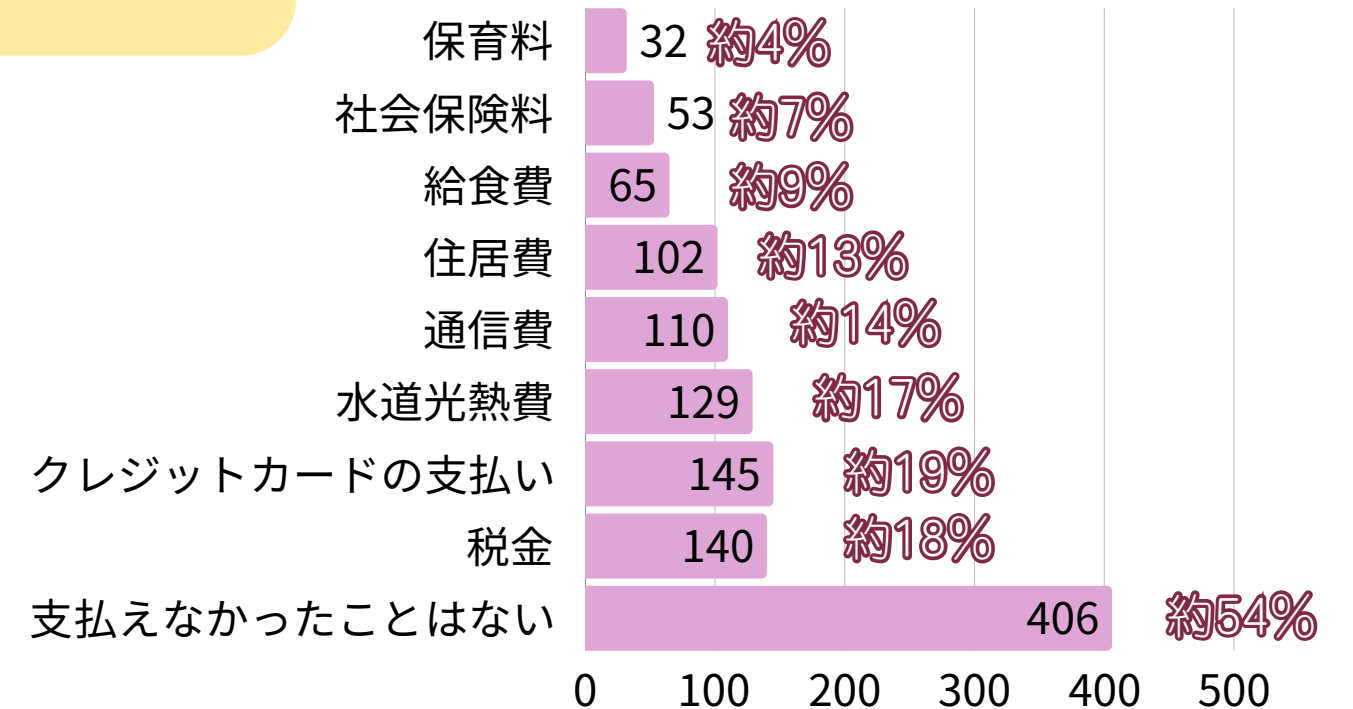


アンケート結果

料金支払いについて

過去 1 年間に経済的理由により期限通りに費用を支払えないことがあったもの

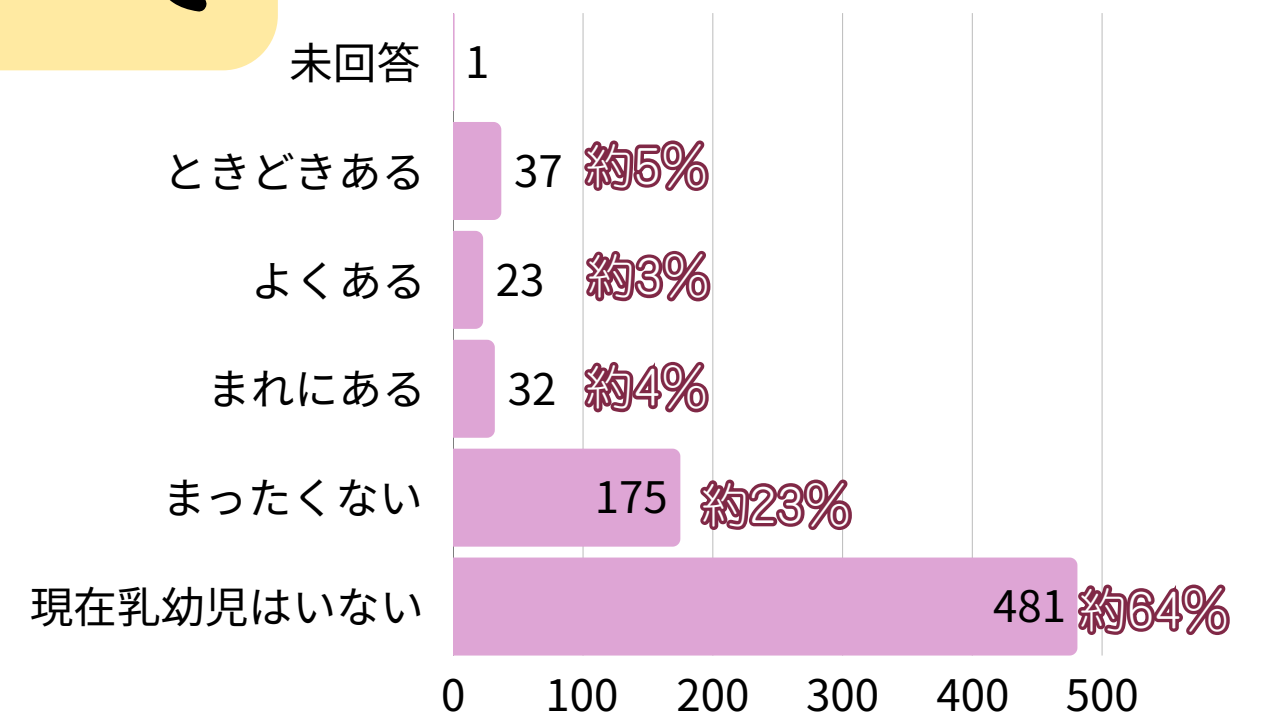
支払えないことがあったものの最多回答は
・クレジットカードの支払い(19%)
・税金 (18%)
という結果になっています。



乳幼児必需品について

経済的な理由により、オムツやミルク、ベビーフードなどが不足することがありますか。

乳幼児が家庭にいる方の中での割合は
・ときどきある 14%
・よくある 10%
・まれにある 13%
・まったくない 62%
となっております。

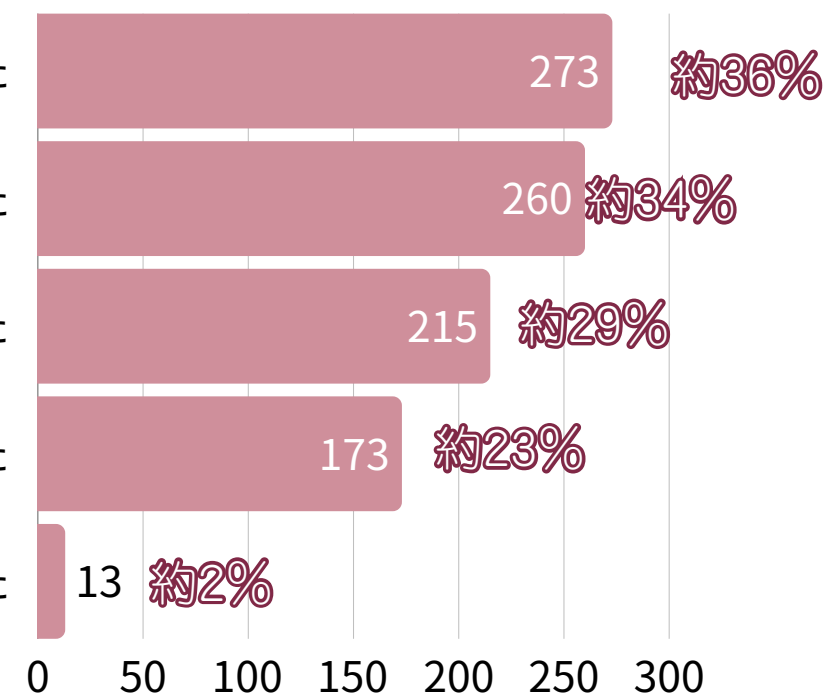


アンケート結果

こどもとの関わり

1年前と比較してどう変化したか。

こどもに怒ったり、叱ったりすることが増えた	273	約36%
こどもの笑顔や前向きな表情を見る機会、時間が増えた	260	約34%
こどもといることによってストレスを感じるが増えた	215	約29%
こどもと遊んだり、一緒に勉強したり、前向きに関わる時間が増えた	173	約23%
こどもに手を上げるが増えた	13	約2%



不足していると感じること

ご自身のお子様に不足していると感じることを調査。

最多回答は

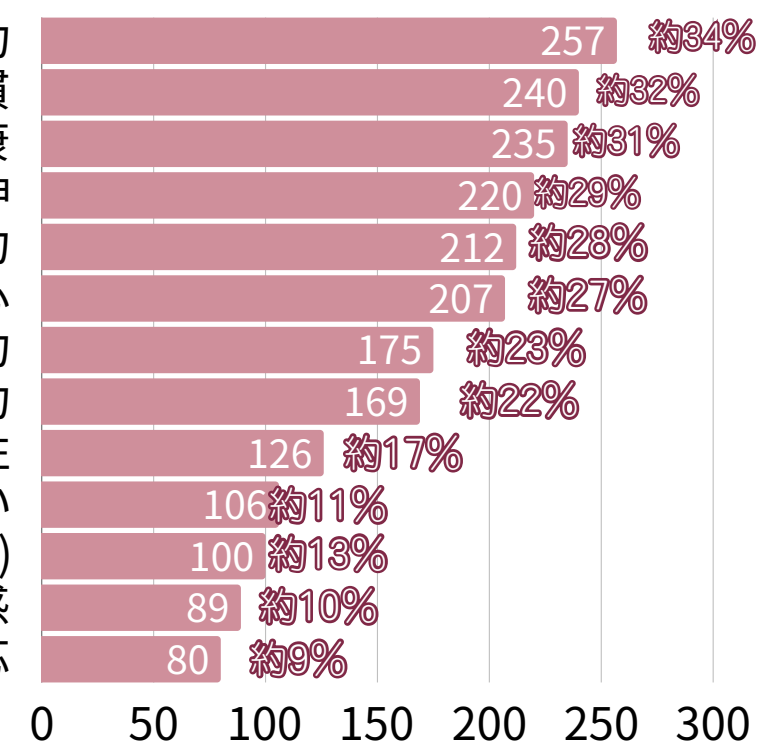
- ・読み書き、計算などの基礎的な学力（34%）

次いで

- ・健全な生活習慣・食習慣（32%）
- ・こころの状態の安定性・心身の健康（31%）

という結果になっています。

読み書き、計算などの基礎的な学力	257	約34%
健全な生活習慣・食習慣	240	約32%
こころの状態の安定性・心身の健康	235	約31%
意欲・チャレンジ精神	220	約29%
コミュニケーション能力	212	約28%
自己肯定感・自尊心	207	約27%
自己表現力	175	約23%
生活自立能力	169	約22%
他者への共感性	126	約17%
特に不足する性質は見られない	106	約11%
認知(ものの見え方・考え方・価値観)	100	約13%
他者への信頼感	89	約10%
周囲からの評価への適切な反応	80	約9%

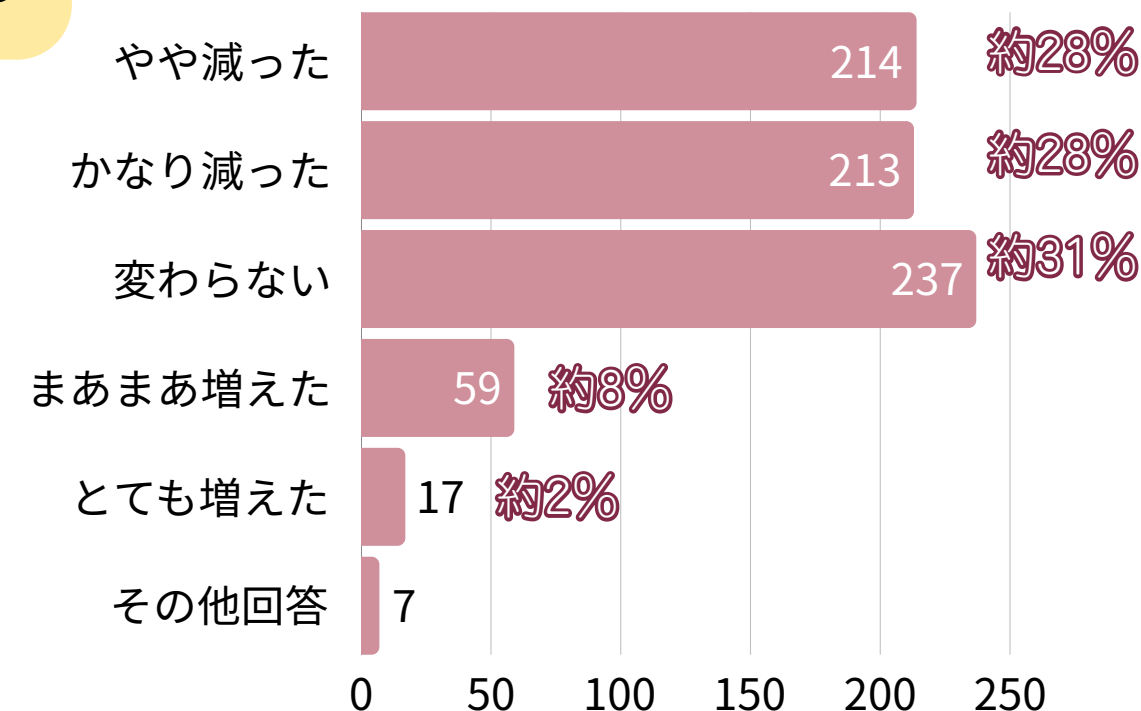


アンケート結果

体験活動頻度の変化

こどもに体験活動をさせる頻度は
ここ1年間でどのように変化したか

・やや減った と ・かなり減った
を合わせると約56%もの家庭が体験
頻度が下がったと回答。



直近1年で一度も体験していない活動

※学校行事での体験は除く

※こどもが複数いる場合、最年少のこどもの現状について回答

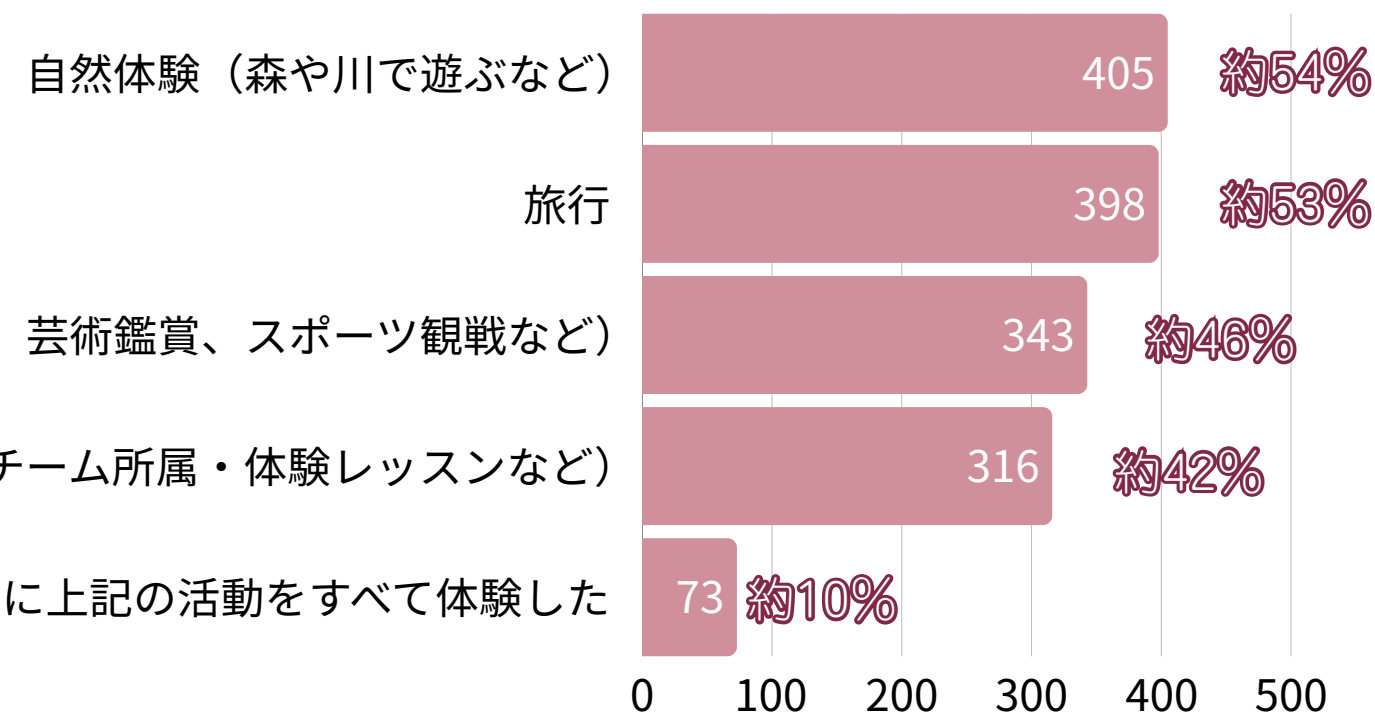
全項目、約半数の割合で

“体験できていない”との回答結果に。

文化芸術体験（動植物園や博物館、芸術鑑賞、スポーツ観戦など）

習い事（スポーツ等のクラブチーム所属・体験レッスンなど）

こどもは直近1年間に上記の活動をすべて体験した



お困り事について

自身の疾患に関する内容

・ずっと不登校だった子どもが高校に入って学校に行くようになり、ホッとしたからか親のわたしが何もできなくなりました。持病の複雑性PTSDからの持続性抑うつ障害が悪化し、非常勤講師の仕事と遺族年金で生きています。

・まだ小学生の子供がいるため、長時間勤務が難しく収入がかなり少ない。また、難病の持病もありなかなか正社員で雇ってもらう事が難しく、世帯収入がひくい。

・自分自身も疾患を持っており、短時間勤務しかできないのですが、療育手帳を持っていない為、行政サービスが受けられません。

不登校・引きこもり

・子供が小学生の頃から不登校になり、母子家庭で仕事を休む訳にもいかず、でも頼れる身内も居なかった為、仕事時間を減らしてたので経済的に苦しくなり精神的にも辛かった

・息子の精神状況も良くなく不登校気味で学校に行けてもクラスには入れず別室で自習なので授業についていけない

・中学の頃からの不登校から始まった今も続く長男のひきこもりに加えて、小学校2年から不登校の次男。

こどもの進学・教育

・金銭的な問題、教育ローンが通らない

・ひとり親で、子供二人を大学にいれたいが、高くて本当に困っている。上の子は、来年大学1年生になるので、「シングルマザー（ひとり親）の子の大学無償化」をお願いしたい

こどもの食生活

・こどもが食費節約の為に昼ごはんを我慢したりする

・夏休みなどの長期休暇には、給食などがなくなるので、ランチ宅配などの支援があるととても助かります。

お困り事について

養育費に対する内容

- ・安すぎて、養育費をもらっていても全く余裕がない。親権を持つ親の経済的負担が大きい。
- ・離婚時、公正証書で養育費等の取り決めをしたが、一切払われていない。
- ・養育費が回収出来ない。離婚時に公正証書を作れなかったため毎回自力で取り立てないといけないけど連絡が付かずなかなか回収出来ない。
- ・調停離婚で審判も出ているが、相手が審判書の受取りを拒否し、一度も養育費を支払ってもらえてない
- ・子らの父親は昨年2月から養育費を支払わなくなり公的支援を受けてても生活が厳しいです。

家族の疾患に関する内容

- ・主人が適応障害のため、就労しているが、体調がすぐ悪くなり、働けない事も多く、経済的に困っている。
子どももあまり学校へ行きたがらず、なるべく一緒に居てあげたいが、私自身も働かないと生活できないので、育児と仕事の両立を難しく感じている。

別居などの家庭状況

- ・親と同居のシングルマザーには補助ができません
- ・別居中(離婚調停中)のひとり親にもひとり親家庭と同じ支援を受けさせてほしいです。
調停、裁判にはお金が必要になるし、相手方の主張に振り回されたり、調停期日に仕事の休みをとったり、精神的ストレスはかなりのものです。

お困り事について

こどもの疾患に関する内容

- ・死別ひとり親として障害児を含む三人の子育て中です。この先どう生きていけばいいのかわかりません。将来を考えると不安しかありません。
- ・子ども食堂を利用したいが、自閉症児を連れて行く事へのハードルがある。
- ・子ども2人に発達障害があり、精神的にも不安定なため一人親であるが仕事に行くことが難しく、生活が異常に困難です。
- ・子どもが発達障害を抱えており、嫌なことを我慢してやるという行動が難しく、学校に行けていない。勉強が遅れていて、ひらがなも十分に書けない。愛着障害もあるため、母親に執着して母親が子育てに疲れる。

・息子が5ヶ月間入院していたため、その間は仕事ができず、生活がどんどん厳しくなっていました。

・子供の病気で仕事を辞めてしまい、やむおえず専業主婦になりました。前から厳しかった生活が更に主人だけの収入で生活費がカツカツな暮らしをしています。

・ひとり親なうえに、障害児を育てる親の支援が無い。

・物価高騰と、長男の発達障害のための受診で働き方を減らすしかなく、夫も仕事に定着しないため、困っている。

・19歳となった第1子は、生後3ヶ月に難病を発症し気管切開をして24時間人工呼吸器をつけ、全介助の障がいを持ちました。声は出せず、自ら動かせるのは目の動きのみです。困難ばかりですが、学びに繋げ文字入力をスイッチを使っていますし、本人のいいたいことを言語化する力もつけています。

母親の私は19年間在宅生活で彼女を支えました。私自身、メニエールを定期的に発病しながら介護をしているような日々です。働きにはでれず、この収入を増やせない状況で姉妹たちには我慢をさせてしまっています。

お困り事について

シングルファザーの声

・3児のシングルファザーですが、シングルファザーの生活状況にはスポットが当たりにくく、平均年収よりも収入があるため周りになかなか理解されにくい状況が辛いです。1人で仕事・子育て・調停裁判を両立する生活になってから3年経過し、試行錯誤しながらやりくりしていますが、特に子育てに充てる時間が足りないと感じることが多いです。表面上問題になるような内容もなく、収入額や世帯年収などの表面上わかる内容しか見られないので（離婚裁判中であるので住民上はひとり親世帯ではない）、いつも行政からの支援対象外になっています。実態を踏まえて国から子育て支援するような制度を国行政には希望します。最近男性育休が注目されていますが、産後の乳児よりも、仕事と両立しながら幼児の子育てをしているほうがはるかに大変だと感じていますが、現状2歳以降の子育てに関してほぼ支援を受けられない状態であるところが問題だと思っています。

こどもとの生活

- ・子供と一緒にいる時間が取れない
 - ・高1の息子とのコミュニケーションがうまく出来ない、態度にイライラして声をあげてしまうこともある。
 - ・土日の小学生の子供の預かりがない。
 - ・仕事をがっつりやらないと毎月赤字になるので子供との関わりが少ない。留守番をさせてばかりで夕飯も1人で食べさせている。
 - ・小学校高学年の子どもの夏・冬の居場所。トワイライトは行きたがらないし、友人は塾に行くが、我が家は経済的にムリ。
 - ・母子世帯で平日、週末関係なく仕事をしているので、子供と触れ合う時間がない。
- かけもちということもあり、時間が上手に使えないが、私自身鬱で通院しているので、正社員として働くことも厳しいため。

お困り事について

支援の地域格差

- ・広島市には、他県に比べて支援が少ないので他県が羨ましいです。

その他

・困り事とまでは行かないのですが、先日、ひとり親の母親が子供を家に留守番させて出かけていたところ、近所の人からの通報で子供を放置していたとの罪で逮捕されたというニュースを見ました。

ひとり親の方で近くに身内や頼れる人がいない方はみなさん子供に留守番させて出かせなければいけない状況はあると思います。

私も現状、夏休み期間中は日中は娘はひとりで家にいますし、夜もどうしても外せない仕事関係の食事等があると晩御飯を作って食べさせて留守番してもらってます。出かける理由にもよるかとは思いますが、ひとり親の方々は私も含めていろんな状況にいると思いますので、留守番させて出かけていたから逮捕というのはちょっとどうなのかと思いました。

留守番＝放置という考え方がそもそも間違いだと思います。

食事も用意せず家に残して出かけるとかであれば話は別ですが...

自分にも当てはまるニュースでしたので、ここに書かせて頂きました。

- ・現在妊娠中、つわりで働けなくなり収入減となっています。